



- ①各種パッケージ商品
- ②フック付けも内職加工で対応
- ③内製化を目的に導入した箔押し機
- ④本社内の倉庫で在庫を管理

うえ やま し ぎょう
上山紙業 株式会社



代表取締役社長
うえやま まさゆき
上山 正幸さん

顧客ニーズに応える
商品作りを心がけています

デジタル印刷機など新たな機械を導入したことで、小ロット多品種生産や納期短縮のニーズに応えています。現在はアパレル関連の紙箱がメインですが、商品をバランス良く収めることができる箱形状の特性やデザイン力を発揮し、広くユーザーが求めるパッケージを提供します。またユーザーが抱える課題に対し、問題解決企業としてさまざまな提案やサポートを実践しています。どんな苦境でも気持ちを折らず、誠実に取り組めば報われると思います。これから先も、社業発展に向け鋭意努力していきたいと思っています。

■主な事業内容
印刷パッケージ、OPP・CPP袋、
E段美粧ケースの製作など

■主な取引先(納入先)
アパレルメーカー

住 所 / 〒570-0061
大阪府守口市小春町2-9
TEL / 06-6992-6861
FAX / 06-6992-6863
創 業 / 昭和15年 4月
設 立 / 昭和35年12月
資本金 / 4,000万円
従業員 / 6名

<http://www.ueyamasigyo.sakura.ne.jp/>

デザイン力で顧客が求める パッケージを創造する

事業内容と沿革

顧客が求めるパッケージを一括提案

昭和15年、現社長の父、上山春雄氏が無地箱の製函業として「上山紙器工業所」を創業、昭和35年に法人化、現在の社名「上山紙業」となった。業容拡大に伴い昭和47年に自社工場、昭和56年には倉庫を備え生産、販売、管理の体制を確立していく。平成2年には上山正幸氏が社長に就任。箱への直接印刷や各種フィルム製袋の製造など、顧客が求めるパッケージを一括して提供する業態を拡大していく。

その後、各種機械設備を導入し外注していた表面印刷などの行程を内製化。

顧客および時代のニーズに応えた高付加価値な製品開発を進めてきた。

同社のパッケージ作りは、繊維・アパレル業界を中心とした広範なニーズに応えている。新商品展開や商品領域拡大などのタイミングに合わせて多様な製品を提供する。現状では商品包装形態の変化に伴い、フィルム素材の透明袋（OPP袋やCPP袋）のほか、PRカードや説明シール類なども製造。透明袋への印刷やフック付けなども手がけている。

強み

設計力とデザイン力で 顧客満足を実現

紙箱やフィルム袋などの各種パッケージには商品を包む(守る)機能だけでなく、装飾やデザインを施し商品価値を高める目的もある。同社では顧客からの要望にきめ細かく対応。紙質など材料の選定から印刷や表面加工といった持ち前の技術力を駆使、低価格化を図りながらも商品の魅力を最大限アピールする高品質なパッケージを提案している。中でも、ワンタッチで開封する「組立手さげ箱」や「組立紙箱」などを考案し、広く普及した数多くの実用新案を取得した実績がある。原紙1枚の中で極力ロスをなくし強固な構造を作り出す箱の製作手法など、高度な設計力とデザイン力が同社の大きな強みといえる。

上山社長は「これまで数多くの設計案を生み出してきたが、その原点の大半は顧客の要望からヒントを得たもの」と語る。顧客満足を重視した開発への思いは、創業時から変わらない。今もなお新たなアイデアを巡らせ、斬新な商品開発を模索し続けている。

品質と即納

内製化を進め 品質向上と即納を実現

同社では印刷や特殊加工など加工業務の一端を協力企業へ委託し、最終加工や包装検品などは社内で行う体制を構築してきた。コストや納期、品質管理などを補完するためにはベストな選択であった。ただ昨今、業界内では受注条件として即納体制の構築が求められるようになってきている。

そこで同社では、平成27年度の中小企業庁の「ものづくり補助金」を活用しデジタル印刷機や単色印刷機、箔押し機などを導入。箱・袋製品への直接印刷や箔押し加工など付加価値を与える工程を内製化する業態に舵を切った。

結果、小ロット多品種生産への対応力やデザイン性の向上を実現。上山社長は「時間短縮が求められるサンプルパッケージの製作などにおいて、データ入稿だけで製品化を可能にするデジタル印刷機の存在は大きい」と競争力強化への取り組みに満足する。あわせて新たな業容転換に社員の意識が向上し、品質向上・維持への生産活動や加工能力のレベルが一段と高まった。

今後の展開

海外事業と 新規業種開拓を推進

平成25年、主力ユーザーの海外生産移転に呼応し、中国山東省威海市に独资で「威海雄山貿易有限公司」を設立した。主に日系アパレル企業に向けて、紙や樹脂のパッケージ商品を提供している。また、中国国内におけるパッケージニーズの拡大に応え、現地印刷会社と連携を図り中国国内でのビジネス展開を進めている。上山社長は「現地でのネットワークができており、今後は広く異業種の企業ともビジネス関係を構築していきたい」と海外事業の強化への抱負を語る。

一方、日本国内ではパッケージ表面のデザイン力強化を目的に専門部署を立ち上げた。「品質・コストパフォーマンス・企画提案力」をテーマに、同業他社に負けない経営基盤を構築する狙いがある。デザイン性ととも提案力を磨き、食品関連や一般消費財など多様な業種でのスポンサー拡大につなげる。上山社長は「新規業種への参入は簡単ではないが、安定した業容を構築するには新たな事業の柱が必要になる」と狙いを強調する。